



地域で協力して、被災者の救出や消火活動を



9月4日 本郷小学校において行われた 町総合防災訓練



あなたは
だいじょうぶですか？
——突然の災害に備えて——

大地震のような同時・

多発型災害が発生した
場合の対処

まずは身の安全を確保。公的な救助のみ
では対処できなくなります。周囲で協力
を。

ほぼ確実に余震がやってくることを忘れ
ずに、行動を開始

速やかに安全な場所に歩いて避難。頭上
からの落下物にも注意、可能であれば非
常持出品を持って。

火の元を点検、電気のブレーカー「切」、
ガスメーター器のコック、灯油タンクの
バルブ「閉」、ガス漏れがある場合は、電
気関係のスイッチ類は操作しない。（引
火の恐れ。）

手助けを必要とする人には支援の手を。
ご近所どうしで安否の確認。逃げ遅れた
人がいないか確認を。

運転中の車は、交通妨害にならない場所
に停車、カギをつけたまま車から離れる。
被災者の救出作業には、監視役をおく。
作業中も常に安全確保に心がけて。

正しい情報を見極める。（憶測やデマな
どに振り回されないように）



◀備えておきたい防災用品



◀応急処置や放置車両の移動方法
なども学んでおきましょう▼



普段からやって

おきたい備え

- * 非常持出品を備える。夜間の発生も考えて置き場所に工夫を。（枕元に履き物等の必要品）
- * 家具転倒防止措置を実施、下敷きにならないように。（金具固定が効果的）
- * 建物の耐震性を確認、必要な工事の実施を。（特に昭和56年以前の建物）
- * 避難生活必需品の備蓄と更新を計画的に行う。使用方法の習得も。（食糧や水以外にも、寒さ対策、トイレ対策、衛生用品・常備薬・めがね等の必需品、貴重品）
- * 家族の連絡方法、集合場所を決める。
- * 地区の避難所と避難路の安全性を確認する。
- * ご近所での声かけなど助け合いの関係を築く。
- * 訓練や講習に進んで参加し、万が一の場合の対処方法を身につける。
- * 東海地震に関する警戒宣言が発令された場合に必要な行動と対策を覚える。
- （安全な場所、持出品、履物・服装、正しい情報、避難所と避難路、運転中の車、火災予防など）

地震は必ずやってくると言われています。その時に備えて日頃から準備を整えておきましょう。